

能界展望(昭和63年～平成4年)

西野, 春雄

(出版者 / Publisher)

野上記念法政大学能楽研究所 / The Nogami Memorial Noh Theatre Research
Institute of Hosei University

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

Nogaku kenkyu : Journal of the Institute of Nogaku Studies / 能楽研究 :
能楽研究所紀要

(巻 / Volume)

18

(開始ページ / Start Page)

173

(終了ページ / End Page)

190

(発行年 / Year)

1994-03-30

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00020455>

能界展望 (昭和63年・平成4年)

西野 春雄

能界展望は、昭和62年の記事を載せた第十四号（平成元年3月30日発行）以来、種々の事情により、休載せざるを得なかったが、世は昭和から平成に代わってすでに六年目を迎え、国際的にも変革・変動期に入っている現在、時代の流れも、能界を取り巻く情勢も、少しずつ変化し変動している。そこで、今回は、これまでの主な動きを概観し、次に記録を中心に記述して、少しでも遅れを取り戻すことにしたいと思う。今号には、昭和63年から平成4年までの分を載せる。

概観

ここ数年、能楽界は催しの数も格段に増え、全国各地での新能も頂点に達した感があつた。各地の新能の開催日・演者や番組・その他の内容について『観世』編集部が一冊にまとめた『今年の新能』が出版される程であるが、近年はバブルが弾けたためか、地方公共団体主催による新能・野外能は、ひところよりは減少してきており、催会過密の解消にはむしろ歓迎すべき現象かもしれない。新能ばかりが能の普及や観客層拡大の手段ではないはずで、これまでの成果を踏まえつつ、さらに工夫してもらいたいと思う。

また近年の特筆すべき動きとして、横浜・名古屋・大津など地方都市に続々と能楽堂の建設が進んでいることである。国立能楽堂をはじめ各地の既存の能楽堂の長所を積極的に取り入れながら、その地域の特色や立地条件を生かした能楽堂の建設に期待したい。そして、ハードの面もさることながら、ソフトの面での清新な発想を望みたい。多目的がいつのまにか無目的になった例もあるから、慎重に進めてもらいたい。ところで、以前も本欄で取り上げたことがあるが、年間を通じての各流各派の常の会はいうまでもないが、昭和62年から始まった国立能楽堂の研究公演（武文・舞車・当願暮頭）をはじめ、梅若六郎・大槻文蔵などによる活発な廃絶曲の復曲活動や、古演出の復活上演などが、近年積極的に行われている。本研究所でも創立40周年を記念し「鐘巻」を復曲した（彙報参照）。一方、心臓移植の問題を取り上げた多田富雄作「無明の井」、W・B・イエーツ原作・高橋睦郎作「鷹井」などの新作能も盛んで、話題を呼んだ。今後とも、能の精神や技法に基づきつつも、類型にこだわることなく、誤り訛誤を正し、古典に新たな生命を吹き込んでもらいたい。現代と相渉る創作活動は、能が現代の演劇の一翼を担う芸術であるかぎ

り、将来も積極的に続けられるであろうし、そうあってほしい。

ところで、国際化の波はあちこちに現れているが、国立能楽堂主催の外国人のための能楽鑑賞会もそのひとつであろう。年一回の公演ながら、着実な動きを見せつつある。概要を記した英語・中国語・ドイツ語・フランス語・朝鮮語・スペイン語によるパンフレットも有難く、演能に先立ちリチャード・エマート氏による英語の解説もある。さらに有料ながら、モニカ・ベーター氏とリチャード・エマート氏、及びロイヤル・タイラー氏による戯曲構造に留意し対訳その他にいろいろと工夫が施された解説書も有益で（これまで「松風」「藤戸」「三井寺」の三冊を刊行）、これからも末長く継続してほしい。とくに技法面にも言及した解説書は、類書もあまりなく、これまでの英訳書の水準を抜いており、年一冊づつでも刊行されれば、将来の良き資料となるだろう。あまり知られていないが、国立能楽堂ならではの仕事である。

このように能楽界は未曾有の盛況を呈しているが、一方で、シテ方・ワキ方・狂言方・囃子方ともに、それぞれかけがえのない人物を失った。明治の気骨を示した近藤乾三氏・柿本豊次氏をはじめ、激動の時代を支えて来られた方々を見送らねばならなかった。詳しくは物故者の欄を見ていただきたいが、能楽界も新旧交代が進んでいる。しかし、それ以上に、現今の催し物の増大と超多忙な状況が寿命を縮める一要因となっている点も否めない。特に福岡で「砧」を演じ終えての

ち数時間後に亡くなられた観世左近氏の急逝は、氏が六十代の働き盛りであっただけに、哀惜の念をいっそう強くする。

ところで、昭和五十九年度から始まった国立能楽堂による能楽（三役）研修事業も第一期（一期三年）・二期・三期と進み、第一期生・二期生はすでに舞台に出ている。

選考試験に合格し、研修を受けても、途中で辞めていく生徒が出て来るのはやむを得ないとしても、指導に当たった先生方の努力の割りには、歩留まり率がいいとはいえない実情は、早急に検討すべき問題であろう。これまでの成果を踏まえつつ、研修制度の見直しと、遠い将来をも視野に入れた方策を根本的に考える時期に来ていると思う。

以下、近年盛んな国際交流を象徴するかのように十年ぶりに開かれた能をめぐる国際シンポジウムの話題、栄誉・受賞、日本能楽会の増員と日本能楽会・能楽協会関係の記事、物故者などの記録を中心に記述する。

国際シンポジウム

東京国立文化財研究所による第15回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会が「能の伝承と再生」のテーマで一九九一年（平成3年）10月29日～31日の三日間、東京都渋谷区千駄ヶ谷の国立能楽堂を会場して開かれた。能をめぐる国際シンポジウムは、一九七九年（昭和54年）12月に法政大学で開催された第四回国際シンポジウム「世界の中の能」以来十余年ぶりのことで、欧米・豪州・中国の国々から講師を招請し、

参加者も一五〇名を越えた。西川杏太郎委員長の挨拶文に、

近年、能の研究は著しい進展を遂げつつあります。また、能と現代芸術との交流も活発化し、能の技法面に注目する傾向は諸外国においても顕著であります。そこで、本集会では、近年の国内外の能楽研究の成果を踏まえた発表と演劇・音楽の創作家からの実践報告とを交え、能が現代にどのように継承されているかを論じ、併せて将来への展望をも行ないたいと思います。特に、今回は国立能楽堂を会場とし、復曲能の上演を行います。（略）

とある。集会は同時通訳によって進められ、開会式の後、講演・研究発表に入り、それぞれ質疑応答があり、最後は発表者全員が壇上に並び、参加者との活発な討論がなされて、終了した。基調講演と各セッションの題目と発表者は次の通り。

・基調講演

演劇の世界に占める能の位置：J・ブランドン。

日本芸能の伝承と再生―能を中心として―：横道萬里雄。

I 伝承の諸相

演じられる本歌―ひとつの詩的手法―：カレン・ブラゼル。
世阿弥の身体：松岡心平。能楽が近世芸能に及ぼした影響について―音楽面を中心に―：蒲生郷昭。

II 能と現代芸術

演技の核心としての歌：ヤドヴィガ・マリア・ロドヴィッチ。
室内歌劇「浅茅ヶ宿」において試みたこと：増本伎共子。
現代能「水の声」の試み―能と現代演劇―：岡本章。

III 欧米における能の受容

演じられた「旅」―能様式の演劇と北欧の予言詩―：ウィリー・フリント。英語能の可能性―能の現代性・普遍性を探って―：リチャード・エマート。世阿弥の作品にみられる記憶と回想について：スタンカ・ショルツ・チョンカ。
エズラ・パウンドの能「トリスタン」：成恵卿。

IV 復曲の意義と活動

佯狂の祖型―「多度津左衛門」の演劇性―：堂本正樹。
復曲能「多度津左衛門」（梅若六郎ほか）。舞囃子「相聞」（大槻文蔵ほか）。能における「演出」をめぐる：羽田昶。
独吟一管「海道下り」の復元―能管と一節切の一交流―：高桑いづみ。復曲の意味：西野春雄。
盛りだくさんな内容で、いろいろと触発されることが多いシンポジウムだった。これらの成果が、現代の能楽研究および演能にも生かされることを期待したい。

栄誉・受賞など

【昭和63年度】

◎春の叙勲 63年4月29日付

シテ方観世流 梅若恭行氏 勲五等双光旭日章

狂言方泉流 井上松次郎氏 勲五等双光旭日章

檜書店社主 檜常太郎氏 勲四等旭日小綬章

◎春の褒章 63年4月29日付

シテ方喜多流 栗谷新太郎氏 紫綬褒章

◎秋の叙勲 63年11月3日付

小鼓方大倉流 鵜沢寿氏 勲四等旭日小綬章
 狂言方大蔵流 善竹玄三郎氏 勲五等双光旭日章

◎芸術祭賞〔演劇部門〕(昭和63年度)

「茂山忠三郎・狂言の会」が芸術祭賞を受賞。「木六駄」のシテを着実に初演して、芸境の広がり強く印象づけ、茂山千之丞のシテ「文相撲」も水準の高い舞台を展開。善竹幸四郎・善竹圭五郎・茂山千五郎ら助演者の配役も適切で、会発足以来の年輪を感じさせる充実した公演に対して。

◎芸術選奨文部大臣賞 第39回(昭和63年度)

シテ方観世流 観世元昭氏
 秋の昭門会での「芭蕉」で、女の姿をかりた芭蕉の精が、寂しく雪の中に枯れ行く哀れを、洩い中にもほのかな艶を見せ、深い感動を与えた、というもの。

◎京都府文化賞(第7回)(昭和63年度)

特別功労賞を林屋辰三郎氏が受賞。立命館大学、京都大学教授を経て、人文科学研究所所長、京都国立博物館長など要職を重ね、「芸能史研究会」の責任者として新たな視点で日本史を見直すなどの功績に対して。

◎大阪文化賞〔能狂言部門〕(昭和63年度)

シテ方観世流 大槻文蔵・梅若万紀夫氏が本賞を受賞。
 大槻文蔵氏は申楽大和座スペシャル公演能における「融」の演技、梅若万紀夫氏は第42回梅若万紀夫の会大阪公演における「松風」の演技が受賞対象。

◎第10回観世寿夫記念法政大学能楽賞(昭和63年度)

シテ方喜多流 友枝喜久夫氏。大阪市立大学教授伊藤正義氏。(別記)

◎第1回催花賞 大鼓方観世流守家金十郎氏 (別記)

◎サントリー地域文化賞(昭和63年度) 黒川能保存会

◎石川県知事賞表彰 シテ方宝生流 犀川小太郎氏

◎北日本新聞文化賞 シテ方宝生流 千章修氏

【昭和64年度(平成元年度)】

◎春の叙勲 元年4月29日付

国立能楽堂元主幹 福田安男氏 勲三等瑞宝章

笛方森田流 寺井啓之氏 勲五等双光旭日章

シテ方宝生流 渡辺三郎氏 勲五等双光旭日章

◎春の褒章 元年4月29日付

シテ方宝生流 宝生英雄氏 紫綬褒章

◎重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)追加認定

5月6日・狂言方大蔵流の重鎮茂山千五郎氏が、いわゆる人間国宝の認定を受けた。本名七五三。大正8年京都生まれ。13年「いろは」のシテで初舞台。昭和41年十二世千五郎を襲名。「狸腹鼓」の演技で、41年度文部省芸術祭奨励賞、56年度文化庁芸術祭大賞、57年度芸術選奨文部大臣賞、60年紫綬褒章を受章。認定資料に「関西大蔵流の芸風である写実味のかかった演技に特徴を見せ、近年抑制のきいた演技で各上演曲の成果を高め、その技芸はきわめて充実、円熟した境地を示している」とある。

◎秋の叙勲 元年11月3日付

ワキ方宝生流 森茂好氏 勲四等旭日小綬章

シテ方宝生流 山田太佐久氏 勲五等瑞宝章

◎芸術院賞(平成元年度) 平成2年3月26日付

シテ方観世流 片山九郎右衛門氏。片山家の当主として、また京都能楽界の重鎮として伝統の継承に尽くした功績。

狂言方と泉流 野村万作氏。受賞理由は、優れた演技で、和泉流の狂言の伝統芸を継承、狂言の評価を高めた功績。

◎第40回 芸術選奨新人賞(平成元年度) シテ方宝生流田崎隆三氏。能「放下僧」「三輪」を演じて的確な理解と、節度のある演技でその曲趣を生かした成果。

◎第11回観世寿夫記念法政大学能楽賞(平成元年度)太鼓方金春流金春惣右衛門氏。昭和女子大学教授後藤藤淑氏 (別記)

◎第2回催花賞 太鼓方金春流三島太郎氏 (別記)

◎第9回伝統文化ボーラ大賞(平成元年度) シテ方喜多流友枝喜久夫氏。ボーラ伝統文化振興財団が「無形の伝統文化」の分野で優れた業績をあげた人を顕彰。

◎第10回金沢文化活動賞 狂言方と泉流 能村英丘氏

◎大阪芸術賞 狂言方大蔵流 茂山千五郎氏

【平成2年度】

◎春の叙勲 2年4月29日付

シテ方金春流 金春信高氏 勲四等旭日小綬章

太鼓方観世流 小寺俊三氏 勲五等双光旭日章

◎秋の叙勲 2年11月3日付

シテ方宝生流 田巻利夫氏 勲五等双光旭日章

◎文化勲章 京舞井上流四世家元井上八千代氏。

◎第41回芸術選奨新人賞 狂言方大蔵流 山本則俊氏。

◎重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)追加認定

3年3月22日付。シテ方宝生流 松本恵雄氏が認定された。

大正4年名手松本長の次男として生まれ、昭和11年初舞台。日本能楽会会員。昭和43年度芸術選奨文部大臣新人賞を受賞。57年「大原御幸」で芸術祭大賞受賞。第4回観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。

◎第12回観世寿夫記念法政大学能楽賞

ワキ方宝生流宝生閑氏。橋の会 (別記)

◎第3回催花賞 大鼓方高安流柿原繁蔵氏 (別記)

◎京都市芸術新人賞 笛方森田流 杉市和氏

祖父杉市太郎の流麗な芸と、森田流伝統の豪壮な気風を合わせ持つ、との受賞理由。

◎第9回京都府文化賞 3月26日付 シテ方観世流片山九郎右衛門氏。京都薪能をはじめ能楽の普及と大衆化に尽力した功績に対して功労章を受賞。小鼓方幸流曾和正博氏。嚙

子方のニューリーダーとして積極的に行動、若手の技芸向上に取り組む働きに対して奨励賞を受賞。

◎福岡市文化賞 喜多流シテ方 笠井改氏。

【平成3年度】

◎春の叙勲 3年4月29日付

シテ方金春流 守屋与四巳氏 勲五等双光旭日章

狂言方大蔵流 善竹圭五郎氏 勲五等双光旭日章

◎春の褒章 3年4月27日付

シテ方喜多流 喜多六平太氏 紫綬褒章

◎第8回田辺尚雄賞

横道萬理雄・蒲生郷昭・羽田昶・蒲生美津子・西野春雄・松本雍氏による共著『能の囃子事』（一九九〇年五月、音楽之友社発行、東洋音楽選書）に対して。

◎秋の叙勲 3年11月3日付

狂言方大蔵流 茂山千五郎氏 勲四等旭日小綬章

京大名誉教授 阪倉篤義氏 勲三等旭日中綬章

◎秋の褒章

シテ方金剛流 金剛巖氏 紫綬褒章

◎文部省地域文化功労者 3年11月3日付

笛方森田流 片岡吉雄氏（金沢市）

◎京都市芸術文化協会賞 シテ方観世流片山慶次郎氏。京都観世会専務理事を務め、能楽の発展に尽力し、一般への紹介、後進の指導など幅広い活動に対して。

◎TARG賞（タ－グ） 第5回（名古屋青年商工会議所）

笛方藤田流 藤田六郎兵衛氏が、文化芸術部門で受賞。

◎芸術祭賞 シテ方観世流梅若盛義氏。第4回梅若盛義ころみの会の「望月古式」の演技に対して。

◎第13回観世寿夫記念法政大学能楽賞

シテ方喜多流 栗谷菊生氏。狂言共同社（別記）

◎第4回催花賞 ワキ方高安流岡次郎右衛門氏（別記）

◎芸術院新会員 3年12月15日付

狂言方大蔵流 茂山千五郎氏と演劇評論家の戸板康二氏

◎大阪文化祭賞（本賞「能・狂言」部門。平成3年度）

「恋重荷」の出演者一同（代表長山礼三郎氏）、茂山忠三郎狂言の会での善竹幸四郎氏「佐渡狐」に対して。

◎第42回芸術選奨文部大臣賞（平成3年度）

シテ方観世流観世鍔之丞氏が受賞。受賞の対象曲は「鷺」（野村万作の会・10月26日）、「定家」（鍔仙会・11月8日）、「当願暮頭」（国立能楽堂研究公演「復曲の試み」）で、それぞれの舞台成果に対して。

◎京都市芸術功労賞（平成3年度） 小鼓方幸流曾和博明氏。

能楽小鼓方としてローマ法王御前能などに出演。京都囃子方同明会理事長として後進の育成の尽力に対して。

◎京都市芸術新人賞 狂言方大蔵流茂山あきら氏。SF狂言「狐と宇宙人」などで狂言の大衆化に力を注ぎ、新劇、実験劇にも参加するなど、多彩な活動に対して。

◎芸術院賞（平成3年度） 4年3月23日付

シテ方観世流観世鍔之丞氏。能界に尽くした業績に対して。ワキ方宝生流宝生閑氏。「谷行」ほかの優れた演技に対して。

【平成4年度】

◎春の叙勲 4年4月29日付

シテ方宝生流 松本忠宏氏 勲五等双光旭日章

狂言方泉流 野村又三郎氏 勲五等双光旭日章

◎春の褒章

笛方一噌流 一噌幸政氏

紫綬褒章

◎重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝) 4年4月17日付で、太鼓方金春流宗家金春惣右衛門氏が認定された。父の21代金春惣右衛門国泰に師事して修業に専念し、12歳に能「初雪」で初舞台。昭和17年父の死去にともない宗家を継承。その後研鑽を重ね、長年にわたり第一線で活躍してきた能楽囃子方の重鎮。常に安定かつ堅実な技で太鼓方の立場から演能を支え、また能の囃子を理論的に把握し、能の音楽としての囃子全般に対する目配りも行き届き、後継者養成にも積極的に尽力。寿夫賞を受賞。

◎秋の叙勲 4年11月3日付

シテ方宝生流 金井章氏 勲五等双光旭日章

◎秋の褒章 4年11月3日付

狂言方大蔵流 茂山忠三郎氏 紫綬褒章

◎芸術院会員 3年12月15日付

シテ方観世流 梅若恭行氏(本名泰男、65歳)が就任。故梅若実三男。重要無形文化財総合指定保持者、昭和63年日本芸院賞を受賞している。

◎文部省地域文化功労者 シテ方観世流中森晶三氏(鎌倉市)。永年にわたる学生鑑賞能や新能・市民能などの活動を通して、能楽の普及と地域文化向上に寄与した功績に対して。

◎第14回観世寿夫記念法政大学能楽賞 大蔵流狂言方茂山千之丞氏。武蔵野女子大学教授増田正造氏(別記)

◎第5回催花賞 京都能楽養成会専務理事前西芳雄氏(別記)

◎大阪市民表彰 シテ方観世流 塩谷武治氏。多年にわた

り、能一筋に研鑽を重ね、能の振興発展への貢献に対して。

◎大阪文化祭賞 狂言方大蔵流茂山忠三郎氏。シテ方観世流 梅若万紀夫氏。

◎芸術選奨文部大臣賞 5年2月26日付 シテ方宝生流近藤乾之助氏。4月宝生月並能での「是界」、近藤乾之助試演会での「柏崎」ほかの演技に対して。狂言方大蔵流山本東次郎氏「三番三」ほかの演技に対して。

◎大阪府府民劇場奨励賞 笛方森田流野口浩和氏。4年9月6日「能と囃子の会」での「安宅・勧進帳・延年ノ舞」の演奏に対して。

◎名古屋市市民芸術祭賞 笛方藤田流藤田六郎兵衛氏。4年10月18日の10世藤田六郎兵衛追善会での「松風」の演奏に対して。

◎京都市芸術新人賞 5年3月11日付 シテ方観世流 河村和重氏。

日本能楽会の増員

重要無形文化財「能楽」(総合指定)保持者で構成されている日本能楽会は、平成3年11月6日の定時総会において、新たに70名の新会員を決定、同日新会員認定書授与式が行われた。昭和61年につぐ増員で、延べ会員員数は五九七名に達する。その間に、一八五名が没し、平成4年5月末の会員数は四一四名で、内訳は、シテ方二七二名、ワキ方二二名、笛方

二名、小鼓方二四名、大鼓方二三名、太鼓方一五名、狂言方三七名である。新会員の氏名は左の通り。

シテ方……51名

〔観世流……34名〕 青木道喜・浅井文義・井戸和男・井内正治・稲田慶治・池内幸三郎・池内光之助・今村嘉伸・上野朝義・梅若万紀夫・岡久広・角当行雄・勝部延和・観世清和・観世栄夫・木月達雄・木村薫哉・久保田稔・小西弘通・佐藤恭司・高橋弘・多久島利之・武田宗和・津村禮次郎・寺井栄・寺澤忠芳・橋本擴三郎・林喜一郎・坂真次郎・久田徹二・深町新次郎・味方健・水田博・宮田宏之

〔金春流……1名〕 金春安明

〔宝生流……12名〕 石黒孝・衣斐正宜・大坪喜美雄・小倉敏克・小林与志郎・田崎隆三・當山孝道・登坂武雄・中村孝太郎・宝生英照・前田晴啓・渡辺他賀男

〔金剛流……2名〕 宇高通成・金剛永謹

〔喜多流……2名〕 長田驍・佐々木宗生

ワキ方……2名

〔福王流……1名〕 中村弥三郎

〔宝生流……1名〕 工藤和哉

小鼓方……3名

〔幸流……1名〕 曾和正博

〔大倉流……1名〕 大倉源次郎

〔幸清流……1名〕 柳原富司忠

大鼓方……5名

〔大倉流……2名〕 大村滋二・大倉三忠

〔高安流……1名〕 国川純

〔葛野流……2名〕 亀井実・原岡正隆

太鼓方……1名

〔金春流……1名〕 上田悟

狂言方……6名

〔大蔵流……6〕 大蔵弥太郎・大蔵吉次郎・大西安春・茂山真吾・善竹忠重・善竹長徳

能楽協会・日本能楽会関係

【昭和63年度】

◎能楽協会

○会員数(63年5月27日現在) 一四三五名 休会者25名

〔シテ方〕 観世流669 金春流112 宝生流161 金剛流81

喜多流41 小計一〇六四名

〔ワキ方〕 高安流25 福王流20 宝生流25 小計70名

〔笛方〕 一噌流9 森田流43 藤田流4 小計56名

〔小鼓方〕 幸流21 幸清流9 大倉流17 観世流10 小計57名

〔大鼓方〕 葛野流14 高安流12 大倉流13 石井流9 観世流3 小計51名

〔太鼓方〕 観世流19 金春流23 小計42名

〔狂言方〕 大蔵流71 和泉流24 小計95名

支部別 東京616 名古屋95 北陸56 京都165 大阪270 神

戸 74 本部扱 159

◎日本能楽会

○会員数(62年11月4日現在) 380名

〔シテ方〕 観世流 178 金春流 9 宝生流 31 金剛流 10 喜多

流 20 小計 248名

〔ワキ方〕 高安流 10 福王流 6 宝生流 6 小計 22名

〔笛方〕 一噌流 5 森田流 13 藤田流 1 小計 19名

〔小鼓方〕 幸流 11 幸清流 5 大倉流 7 観世流 2 小計 25名

〔大鼓方〕 葛野流 5 高安流 4 大倉流 5 石井流 4 観世

流 1 小計 19名

〔太鼓流〕 観世流 5 金春流 10 小計 15名

〔狂言方〕 大蔵流 19 和泉流 13 小計 32名

【昭和64年度(平成元年度)】

能楽協会と日本能楽会は平成元年5月25日の第44回定時総会で任期満了に伴う役員の改選を行い、次の諸氏が新役員に就任した。

◎能楽協会

《理事長》 喜多六平太

《常務理事》 片山九郎右衛門・坂井音重・高橋汎・朝倉桑太郎・種田道雄・佐々木宗生・福王茂十郎・幸昭広・山本東次郎

《理事》 梅若六郎・浅見真州・谷村一太郎・本田光洋・高橋章・広田泰三・宝生閑・野口浩和・柿原崇志・観世元信・谷口正喜・野村万之介。《各支部長》 東京：関根祥六 名古屋

：西村欽也 北陸：山田太佐久 京都：片山慶次郎 大阪：山本勝一 神戸：吉井順一

《事務局長》 中村俊章 《監事》 渡辺三郎

○会員数(元年5月25日現在) 一四四〇名 休会者 19名

〔シテ方〕 観世流 660 金春流 116 宝生流 159 金剛流 80

喜多流 48 小計 一〇六三名

〔ワキ方〕 高安流 25 福王流 20 宝生流 26 小計 71名

〔笛方〕 一噌流 10 森田流 43 藤田流 4 小計 57名

〔小鼓方〕 幸流 21 幸清流 10 大倉流 17 観世流 11 小計 59名

〔大鼓流〕 葛野流 14 高安流 14 大倉流 13 石井流 11 観世

流 3 小計 55名

〔太鼓方〕 観世流 18 金春流 23 小計 41名

〔狂言方〕 大蔵流 70 和泉流 24 小計 94名

支部別 東京 617 名古屋 94 北陸 56 京都 169 大阪 271 神

戸 74 本部扱 159

◎日本能楽会

《会長》 宝生英雄(シテ方宝生流)

《常務理事》 観世元正・金春信高・金剛巖・喜多六平太・森茂好・金春惣右衛門・大蔵弥太郎

《理事》 観世喜之・浦田保利・山本真賀・高橋汎・田巻利夫・辰巳孝・広田隆一・喜多節世・西村欽也・藤田大五郎・森田

光春・鵜沢寿・宮増純三・安福建雄・山本孝・観世元信・井上松次郎 《監事》 桜間金太郎・幸正影

○会員数(元年5月24日現在) 374名

〔シテ方〕 観世流173 金春流9 宝生流30 金剛流10 喜多

流20 小計242名

〔ワキ方〕 高安流10 福王流6 宝生流6 小計22名

〔笛方〕 一噌流5 森田流13 藤田流1 小計19名

〔小鼓方〕 幸流10 幸清流5 大倉流7 観世流2 小計24名

〔大鼓方〕 葛野流5 高安流4 大倉流5 石井流4 観世

流1 小計19名

〔太鼓方〕 観世流5 金春流11 小計16名

〔狂言方〕 大蔵流19 和泉流13 小計32名

【平成2年度】

◎能楽協会

○会員数(2年5月23日現在) 一四三八名

〔シテ方〕 観世流61 金春流115 宝生流154 金剛流79

喜多流60 小計一〇五九名

〔ワキ方〕 高安流25 福王流20 宝生流26 小計71名

〔笛方〕 一噌流10 森田流42 藤田流4 小計56名

〔小鼓方〕 幸流21 幸清流10 大倉流20 観世流10 小計61名

〔大鼓方〕 葛野流14 高安流13 大倉流14 石井流12 観世

流3 小計56名

〔太鼓方〕 観世流18 金春流21 小計39名

〔狂言方〕 大蔵流71 和泉流25 小計96名

支部別 東京624 名古屋92 北陸55 京都168 大阪265 神

戸73 本部扱161

◎日本能楽会

○会員数(2年5月23日現在) 367名

〔シテ方〕 観世流168 金春流9 宝生流29 金剛流10 喜多

流20 小計236名

〔ワキ方〕 高安流10 福王流6 宝生流6 小計22名

〔笛方〕 一噌流5 森田流13 藤田流1 小計19名

〔小鼓方〕 幸流10 幸清流13 大倉流7 観世流2 小計24名

〔大鼓方〕 葛野流5 高安流4 大倉流5 石井流4 観世

流1 小計19名

〔太鼓方〕 観世流5 金春流10 小計15名

〔狂言方〕 大蔵流19 和泉流13 小計32名

【平成3年度】

能楽協会と日本能楽会は平成3年5月23日の第46回定時総会において任期満了に伴う役員の改選を行い、次の諸氏が新役員に就任した。

◎能楽協会

《理事長》 片山九郎右衛門(シテ方観世流)

《常務理事》 梅若六郎・高橋汎・高橋章・広田泰三・喜多六

平太・宝生閑・亀井忠雄・山本東次郎

《理事》 坂井音重・浅見真州・谷村一太郎・金春安明・朝倉

桑太郎・金剛永謹・佐々木宗生・福王茂十郎・一噌仙幸・北

村治・小寺佐七・曾和博朗・和泉元秀。《各支部長》 東京：

関根祥六 名古屋：西村欽也 北陸：山田太佐久 京都：片

山慶次郎 大阪：大槻文蔵 神戸：吉井順一

《事務局長》 中村俊章 《監事》 渡辺三郎・檜常太郎

○会員数(3年5月23日現在) 一四四四名

〔シテ方〕 観世流 652 金春流 115 宝生流 153 金剛流 78

喜多流 61 小計一〇五九名

〔ワキ方〕 高安流 25 福王流 20 宝生流 25 小計 70名

〔笛方〕 一噌流 10 森田流 44 藤田流 4 小計 58名

〔小鼓方〕 幸流 25 幸清流 10 大倉流 18 観世流 10 小計 63名

〔大鼓方〕 葛野流 12 高安流 13 大倉流 14 石井流 12 観世

流 3 小計 54名

〔太鼓方〕 観世流 18 金春流 21 小計 39名

〔狂言方〕 大蔵流 74 和泉流 27 小計 101名

支部別 東京 613 名古屋 95 北陸 56 京都 174 大阪 268

神戸 73 本部扱 165

◎日本能楽会

《会長》 宝生英雄

《常務理事》 井上嘉久・金春信高・金剛巖・喜多六平太・森

茂好・金春惣右衛門・大蔵弥右衛門

《理事》 野村四郎・大槻文蔵・高橋汎・田卷利夫・辰巳孝・

広田隆一・喜多節世・西村欽也・藤田大五郎・森田光春・鶴

沢寿・宮増純三・安福建雄・山本孝・観世元信・井上礼之助

《監事》 桜間金太郎 幸正影

○会員数(3年5月23日現在) 357名

〔シテ方〕 観世流 160 金春流 9 宝生流 29 金剛流 10

喜多流 20 小計 228名

〔ワキ方〕 高安流 10 福王流 6 宝生流 6 小計 22名

〔笛方〕 一噌流 5 森田流 13 藤田流 1 小計 19名

〔小鼓方〕 幸流 10 幸清流 5 大倉流 6 観世流 2 小計 23名

〔大鼓方〕 葛野流 5 高安流 4 大倉流 5 石井流 4 観世

流 1 小計 19名

〔太鼓方〕 観世流 5 金春流 9 小計 14名

〔狂言方〕 大蔵流 19 和泉流 13 小計 32名

【平成4年度】

◎能楽協会会員数(4年5月28日現在) 一四三九名

〔シテ方〕 観世流 644 金春流 116 宝生流 151 金剛流 81

喜多流 62 小計一〇五四名

〔ワキ方〕 高安流 23 福王流 20 宝生流 23 小計 66名

〔笛方〕 一噌流 10 森田流 46 藤田流 5 小計 61名

〔小鼓方〕 幸流 24 幸清流 11 大倉流 18 観世流 9 小計 62名

〔大鼓方〕 葛野流 12 高安流 13 大倉流 13 石井流 11 観世

流 3 小計 52名

〔太鼓方〕 観世流 17 金春流 21 小計 38名

〔狂言方〕 大蔵流 75 和泉流 31 小計 106名

支部別 東京 617 名古屋 94 北陸 53 京都 176 大阪 263 神

戸 73 本部扱 163

◎日本能楽会会員数(4年5月28日現在) 四一四名

〔シテ方〕 観世流 191 金春流 9 宝生流 39 金剛流 12 喜多

流 21 小計 272名

〔ワキ方〕 高安流 10 福王流 7 宝生流 5 小計 22名

〔笛方〕 一噌流 5 森田流 14 藤田流 2 小計 21名

〔小鼓方〕 幸流10 幸清流5 大倉流7 観世流2 小計24名
 〔大鼓方〕 葛野流6 高安流5 大倉流7 石井流4 観世流1 小計23名
 〔太鼓方〕 観世流5 金春流10 小計15名
 〔狂言方〕 大蔵流25 和泉流12 小計37名

物故者

【昭和63年】

竹村圭之輔氏

小鼓方幸流。63年3月17日、老衰のため死去。享年91歳。
 竹村龍之輔の芸嗣子。日本能楽会会員(昭和42年以来)。

戸井田道三氏

文化評論。63年3月24日、呼吸不全のため、横浜市の市立港湾病院で死去。享年78歳。戦後、広い視野に立った能楽評論を毎日新聞に発表し、研究者としても多くの業績を残した。『能楽論』『能―神と乞食の芸術』『観阿弥と世阿弥』『幕なしの思考』などの著作があり、没後『戸井田道三の本』全四冊が編まれた。

松平義男氏

シテ方観世流。63年8月9日、肺癌のため、東京都新宿区の慶応病院で死去。享年74歳。小沢良輔・藤波紫雪に師事。日本能楽会会員(昭和50年以来)。

観世雅雪氏

シテ方観世流分家銚之丞家七世。63年8月22日、肺炎のため、東京都渋谷区の都立広尾病院で死去。享年90歳。明治31年、五世銚之丞(紅雪)の四男として浅草鳥越に生まれる(本名茂)。同34年「雲雀山」の子方で初舞台。同38年「経正」で初シテ。大正7年、兄銚之丞(六世華雪)の養嗣子となり、兄の本名織雄を名乗る。昭和22年七世銚之丞を襲名。33年「姨捨」、35年「鸚鵡小町」。40年「檜垣」を演じ、芸術祭受賞。46年には芸術選奨文部大臣賞を受賞した。54年舞囃子「卒都婆小町」を舞い、以後、雅雪を名乗る。日本能楽会会員(昭和32年以来)。力に溢れた、重厚な芸風で知られ、子息寿夫・栄夫・静夫三兄弟の革新的な演劇活動にも理解を示し、陰で支えた。『能楽タイムズ』昭和63年10月号と『観世』昭和63年11月号に追悼記事が特集されている。

田村 勇氏

シテ方観世流。63年9月5日、肺癌のため死去。享年81歳。大槻十三に師事。日本能楽会会員(昭和50年以来)。

近藤乾三氏

シテ方宝生流。63年10月1日、脳梗塞のため、東京都新宿区の目白病院で死去。享年98歳。明治23年東京に生まれ、32年「鞍馬天狗」の子方で初舞台。翌十六世宝生九郎知栄入門。以来、厳しい鉗鎚のもと修行を続け、堅実にして的確な芸風、燦し銀のような滋味溢れる謡で多くの愛好者を魅了し、また後継者の育成にも尽力した。昭和41年重要無形文化財各個指定保持者(人間国宝)に認定。34年度日本芸術院賞、51年日本芸術院会員。60年文化功労者。61年東京都名誉都民。勲

三等瑞宝章。追贈正四位勲二等瑞宝章。日本能楽会会員(昭和32年以来)。『宝生』平成元年三月号が追悼特集。著書に『さるをがせ』『こしかた』『能―わが生涯』『いぬる句集』がある。

藤谷政二氏

シテ方観世流。63年11月15日、肺梗塞のため、神戸市立中央病院で死去。享年54歳。上田隆一・上田照也に師事。日本能楽会会員(昭和47年以来)。

津田康由氏

シテ方観世流。本名穰三。63年11月27日、急性心不全のため、静養先の静岡県田方郡函南町畑毛の鈴木館で死去。享年72歳。二十四世観世左近に師事。大正8年「花筐」の子方で初舞台。33年観世会理事。日本能楽会会員(昭和40年以来)。

波吉信和氏

シテ方宝生流。63年11月28日、肺炎のため、川越市の霞ヶ関中央病院で死去。享年69歳。旧加賀藩お抱え能役者波吉家12代波吉外次の長男。宝生九郎重英に師事。日本能楽会会員(昭和40年以来)。『宝生』平成元年七月号が追悼特集。

【昭和64年(平成元年)】

池内隆三氏

シテ方観世流。64年1月5日、急性心筋梗塞のため、京都府立洛東病院で死去。享年70歳。杉浦友雪に師事。日本能楽会会員(昭和53年以来)。

観世愛子(佳子)氏

二十四世観世左近夫人。元年4月2日、脳梗塞のため、東京都八王子市の相武病院で死去。享年86歳。

大沢正巳氏

江川堂印刷株式会社取締役会長。元年5月2日、肺癌による心不全のため死去。享年66歳。明治以来、謄本の印刷所として著名な江川堂の社長として活躍した。

飯塚正賢氏

能画家。日本能雅院創立者。元年5月7日、脳溢血のため自宅で死去。享年91歳。高取雅成に師事。日本美術学校教授や絵画団体役員などを歴任。昭和五十年に日本能雅院を設立。宝生新に習いワキツレで舞台に出たこともある。能楽懇談会などで示された明治の気骨あふれる言動は貴重だった。

瀧川洗風氏

能画家。本名萬次郎。日本能雅会創立同人。元年5月9日、老衰のため鎌倉市の自宅で死去。享年92歳。井川洗崖の金嶺画塾門。飯塚政賢氏とともに日本能雅院設立同人。

龜山雅臣氏

シテ方観世流。本名秀三郎。元年5月30日、心不全のため、東京都港区の虎の門病院で死去。享年82歳。小沢良輔・谷村直次郎に師事。日本能楽会会員(昭和50年以来)。

朝山 清氏

シテ方観世流。元年7月1日、胆管癌のため、大阪市天王寺区の大坂警察病院で死去。享年60歳。杉浦友雪に師事。平成元年大阪府知事より文化芸術功労者として表彰される。日

本能楽会会員(昭和53年以来)。

内村直也氏

劇作家。元年7月27日、腎不全のため、東京都港区の自宅で死去。享年79歳。国際演劇協会会長等を歴任。能界では国立能楽堂設立準備委員。能楽能楽懇談会の会員でもあった。

広瀬信太郎氏

能楽(三役)養成会会長。元年10月21日、心不全のため、東京都渋谷区青山の自宅で死去。享年84歳。能楽養成会の養成事業に尽力した。日本能楽会の審査員・能楽協会の監事等を歴任。昭和62年勲四等旭日小綬章を受賞。従五位追贈。

吉田佳弘氏

シテ方観世流。本名績。元年11月18日、心不全のため急逝。享年79歳。井上嘉介・嘉久に師事。京都能楽会常任理事。日本能楽会会員(昭和50年以来)。

坂口雅介氏

シテ方観世流。元年11月27日、急性心不全のため、福岡市の三信会原病院で死去。享年77歳。父清水一および大西信久に師事。福岡観世会理事。福岡市文化賞、大牟田市施行70周年記念表彰、アジア太平洋博感謝状受賞。日本能楽会会員(昭和50年以来)。

青木 豊氏

シテ方観世流。元年12月25日、腎不全のため、東京都世田谷区の至誠会第二病院で死去。享年73歳。初世梅若万三郎・二世梅若万三郎に師事。日本能楽会会員(昭和53年以来)。

柿本豊次氏

太鼓方金春流。元年12月30日、急性肺炎のため、東京都杉並区の西荻中央病院で死去。急性96歳。明治26年7月4日、金沢市に生まれる。大正5年9月、先代金春惣右衛門に入門。昭和41年芸術選奨文部大臣賞を受賞。重要無形文化財保持者各個指定(人間国宝)。勲五等双光旭日章受章。日本能楽会会員(昭和43年以来)。古武士のような風姿と、堅実かつ華麗な芸風で知られた。

【平成2年】

山階信弘氏

シテ方観世流。2年1月6日、大腸癌のため、東京都港区の前田外科病院で死去。享年79歳。父大西新三郎および祖父大西閑雪・二十四世観世左近に師事。昭和13年山階徳次郎の芸嗣子となり山階家を継承。観世会理事、能楽協会理事を歴任。57年勲五等双光旭日章を受賞。日本能楽会会員(昭和40年以来)。著書に『歳月』がある。

武田小兵衛氏

シテ方観世流。本名久芳。2年1月17日、京都市西京区の桂病院で死去。享年84歳。武田小太郎の養嗣子。兄の武田宗次郎に師事。日本能楽会会員(昭和42年以来)。

観世左近氏

シテ方観世流二十五世宗家。2年8月26日、急性心筋梗塞のため、福岡市中央区の広瀬病院で死去。享年60歳。昭和5年、二十二世観世清孝の曾孫として生れる。昭和11年二十四

世左近の養嗣子として入籍、元正を名のる。12年養嗣子披露能での「合浦」が初シテ。14年養父左近死去のため観世華雪後見のもと、二十五世を継承。26年観世会会長。31年能楽協会理事。本拠地の東京で、大曲の観世会館、そして松涛の観世能楽堂と二度にわたって能楽堂を建設するとともに、京都観世会館の建設や名古屋の熱田神宮能楽殿等の建設にも尽力した。海外公演にも積極的でアメリカ、メキシコ、フランス、インドでの海外公演に尽力。昭和38年には世阿弥生誕六百年記念に「松浦佐用姫」を復曲した。能楽協会理事長等を歴任。63年「我が国能楽界の進歩に著しく貢献したこと」により日本芸術院賞受賞。63年に左近を襲名。元年、申楽大和座での「井筒」の演技により大阪文化祭賞を受賞。日本能楽会会員(昭和40年以来)。平成2年8月25日に福岡で催された朝日五流能での「砧」が最後の舞台となった。『観世』平成2年11月号、12月号、翌3年1月号が追悼特集。

井上基太郎氏

シテ方観世流。2年9月1日、呼吸不全のため、東京都港区の虎の門病院で死去。享年82歳。二世梅若実および先代六郎に師事。日本能楽会会員(昭和50年以来)。

河野 由氏

能楽評論家。本名由夫。2年11月1日、動脈瘤破裂のため、東京都港区の虎の門病院で死去。享年65歳。学生時代から金春流の本田秀男と交流が深く、同人主催の秀麗会の活動に寄与。金春流で復曲した「長柄」「実方」にも尽力し、金剛流と

も縁が深かった。『金春月報』90年12月号に追悼記事。

近藤 礼氏

シテ方宝生流。2年11月29日、肺炎のため、東京都練馬区の田中脳神経外科病院で死去。享年84歳。近藤乾三の実弟。大正3年宝生九郎知栄に入門、宝生九郎重英に師事。昭和55年勲五等双光旭日章受賞。日本能楽会会員(昭和40年以来)。句集『たまゆら』がある。『宝生』平成3年4月号が追悼特集。

山口幸徳氏

シテ方観世流。2年12月6日、癌性腹膜炎のため、東京都中野区の自宅で死去。享年92歳。二十四世観世左近・観世華雪に師事。能楽協会理事。日本能楽会会員(昭和48年以来)。『観世』平成3年3月号が追悼記事。

三宅藤九郎氏

狂言方和泉流。2年12月19日、気管支肺炎のため、横浜市磯子区の向生病院で死去。享年89歳。明治34年五世野村万造(万斎)の次男として生まれる。4歳「靱猿」の猿で初舞台。前名万介。昭和11年、三宅家を継ぎ、九世藤九郎を名乗り、平成2年、庄市を襲名。38年「靱猿」で芸術選奨文部大臣賞を受賞。重要無形文化財保持者各個指定(人間国宝)。日本能楽会会員(昭和54年以来)。筆も立ち、「子子(ほうふり)」ほか33曲の新作狂言や新作能の間狂言を創作。著書に『改定小舞謡』『狂言鑑賞』『狂言の見どころ——名作鑑賞百番』『藤九郎新作狂言集』があり、共著に『狂言総覧——内容・構想・

演出』ほかがある。

【平成3年】

佐藤芳彦氏

わんや書店取締役。3年1月8日、急性肺炎のため、東京都三鷹市の杏林堂病院で死去。享年84歳。戦前、わんや書店に入り江島伊兵衛のもとで活躍。『宝生』誌にも健筆を揮い、戦後は宝生流囑託会の設立・運営にも尽力した。著書に『宝生流地拍子』『九段下より』正・続がある。

内藤泰二氏

シテ方宝生流。3年2月4日、前立腺癌のため、名古屋市中昭和区の第二赤十字病院で死去。享年73歳。宝生九郎重英・辰巳孝に師事。熱田神宮能楽殿創立に参画(運営委員)。63年名古屋芸術特賞受賞。教職のかたわら、能面に関する文献資料の蒐集と写真撮影を精力的に進め、『宝生』連載の「能面同名異相異名同相辨」ほか貴重な調査・研究があり、没後『観る―愛面居士の能面探究辨―』にまとめられた。日本能楽会会員(昭和50年以来)。

森 茂好氏

ワキ方宝生流。3年2月7日、急性心不全のため、東京都渋谷区の自宅で死去。享年75歳。大正4年東京生まれ。名人と謳われた宝生新の次男。昭和6年「春日龍神」のワキツレで初舞台。父譲りの格調高い芸風は磨き上げられ、下掛り宝生流の第一人者として大曲・秘曲のすべてを披いた。30・36年文部省芸術祭奨励賞受賞。56年芸術選奨文部大臣賞受賞。

58年観世寿夫記念法政大学能楽賞、58年紫綬褒章受賞。61年重要無形文化財保持者各個指定(人間国宝)。平成元年勲四等旭日小綬章受章。日本能楽会会員(昭和40年以来)。没後に追悼文集『花の跡』が編まれた。

桜間金太郎氏

シテ方金春流。3年3月17日、心不全のため、東京都千代田区富士見の自宅で死去。享年75歳。桜間家十八代桜間金太郎(弓川)の長男として、大正5年1月1日東京に生まれる。初名、龍馬。6歳で初舞台。11歳で「岩船」で初シテ。59年「自然居士」で芸術祭優秀賞を受賞。日本能楽会監事・芸団協理事等を歴任。日本能楽会会員(昭和36年以来)。著書に『能楽三代』がある。

幸圓次郎氏

小鼓方幸清流十四世宗家。3年4月10日、心不全のため、東京都小平市の病院で死去。享年81歳。幸清流家元幸愛吉の次男として明治43年に生まれた。田鍋惣太郎に師事。大正9年初舞台。15年宗家継承。昭和49年紫綬褒章受章。57年勲四等瑞宝章を叙勲。日本能楽会会員(昭和32年以来)。

小早川泰士氏

シテ方観世流。3年4月14日、心不全のため、東京都千代田区の九段坂病院で死去。享年83歳。狂言方と泉流小早川精太郎の四男。狂言方からシテ方に転じ、観世友資・坂井音次郎に師事。日本能楽会会員(昭和50年以来)。

梅若万三郎氏

シテ方観世流。3年4月21日、肺癌のため、東京都新宿区の東京医大病院で死去。享年83歳。明治41年、先代万三郎の四男として生まれ、昭和23年十三世万三郎を襲名。橘香会を主宰。海外能にも尽力し、42年スウェーデンのカーネーション勲章受章。55年勲四等瑞宝章を受章。日本能楽会会員(昭和32年以来)。『橘香』平成3年5月号、および『観世』平成3年8月号が追悼特集。

近藤全宏氏

小鼓方幸流。3年7月13日、腎不全のため、東京都渋谷区のセントラル病院分院で死去。享年85歳。幸祥光に師事。58年勲五等双光旭日章受章。日本能楽会会員(昭和40年以来)。

後藤得三氏

シテ方喜多流。3年7月22日、心不全のため、埼玉県狭山市の病院で死去。享年94歳。後藤慎平の次男として明治40年大阪に生まれた。12歳で喜多六平太入門。昭和38年「卒都婆小町」で日本芸術院賞、42年「鉄輪」で芸術祭賞を受賞。45年重要無形文化財各個指定(人間国宝)を受け、57年日本芸術院会員、59年勲三等瑞宝章を叙勲。喜多流家元十五世喜多実は実弟。『後藤得三芸談』がある。

殿田保輔氏

ワキ方宝生流。3年7月31日、心不全のため、金沢市の自宅で死去。享年64歳。父殿田源二・松本謙三に師事。62年金沢文化功労章受賞。日本能楽会会員(昭和50年以来)。

生島遼一氏

フランス文学者・京都大学名誉教授。胃癌のため、3年8月23日、京都市中京区竹屋町通の自宅で死去。享年86歳。能楽愛好家で、片山博通父子門下。『観世』の座談会の常連。

大槻秀夫氏

シテ方観世流。本名秀雄。3年12月9日、急性呼吸不全のため、大阪市北区の回生病院で死去。享年83歳。明治40年生まれ。養父大槻十三に師事。昭和36年大阪芸術祭団体賞、44年大阪文化祭賞金賞、48年大阪文化祭金賞、51年文部省芸術祭優秀賞団体賞を受賞、51年大阪市民表彰、60年勲五等双光旭日章受章。大槻清韻会能楽堂の建設にも尽力。日本能楽会会員(昭和40年以来)。

【平成4年】

佐伯 実氏

大鼓方葛野流。4年1月19日、脳梗塞のため、神奈川県鶴巻温泉病院で死去。享年81歳。石田清吉・吉見嘉樹に師事。能楽協合理事。日本能楽会会員(昭和47年以来)。

豊嶋敬三郎氏

シテ方金剛流。4年2月27日、急性肝炎のため、北九州市の病院で死去。享年49歳。日本能楽会会員(昭和61年以来)。『金剛』139号(平成4年10月)に追悼記事。

内田信義氏

シテ方喜多流。4年4月8日、急性心不全のため、東京都大田区の安田病院で死去。享年91歳。先代喜多六平太に師事。能楽協合理事。日本能楽会会員(昭和47年以来)。

江草四郎氏

有斐閣社主。4年8月14日、心不全のため東京都千代田区の病院で死去。享年91歳。能楽三役養成会の理事として養成事業に尽力。出版謡曲会会長。

森田光春氏

笛方森田流。本名実。4年8月23日、脾臓癌による心不全のため、京都市東山区の京都第一赤十字病院で死去。享年76歳。森田流分家森田光風の長男。京都帝大卒の異色の経歴を持ち、京都・大阪を中心に活躍し、流儀の重鎮だった。京都能楽会常任理事・京都囃子方同明会理事長・能楽協会京都副理事長・日本能楽会理事等を歴任。昭和61年京都市芸術功労賞受賞、62年勲五等双光旭日章受賞。日本能楽会会員（昭和40年以来）。著書に『森田流奥義録―森田光風遺稿集』『能楽覚え書帖』がある。

木原康次氏

シテ方観世流。本名永治郎。4年9月16日、急性脳内出血のため、東京都千代田区の駿河台日大病院で死去。享年89歳。明治41年片山家へ入門。上京後、42年観世清廉へ入門、観世会理事・能楽協会理事等を歴任。昭和49年勲五等双光旭日章を受章。清廉から清和と四代にわたる古老。日本能楽会会員（昭和40年以来）。

泉 成佳氏

シテ方観世流。4年10月26日、心不全のため、東京都世田谷区の関東中央病院で死去。享年72歳。明治末期から大正初

期にかけて発行されたユニークな能楽雑誌『国謡』の発行者でもあった泉泰一朗の長男。日本能楽会会員（昭和50年以来）。

沼 艸雨氏

能楽評論家。本名博一。4年10月27日、泉佐野市犬鳴山荘で心不全のため死去。享年85歳。印刷業のかたわら、昭和6年頃より大阪経済新聞に能楽劇評を寄せ、以後、能楽や演劇雑誌に評論を発表。NHKの「名人の面影」「日本の芸能」、サンケイ観世能の創始・企画に参加し尽力。大阪能楽観賞会育ての親。大阪府民芸術奨励賞、大阪市民表彰を受章。編著書に『亀堂閑話』『万三郎芸談』『能楽名人のおもかげ』『観世華雪芸談』『沼艸雨能評集』『能楽百話』など。大阪能楽観賞会発行『かんのう』第285号（平成5年2月発行）が追悼特集。

島村 巖氏

シテ方宝生流。4年12月31日、肺炎のため、金沢市のNTT病院で死去。享年65歳。宝生九郎重英・大坪十喜雄・宝生英雄に師事。平成2年北国芸能賞を受賞。金沢能楽会常務理事等を歴任。日本能楽会会員（昭和53年以来）。